

稲作管理特報

令和5年6月2日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

今年の稲の生育は、平年並みに進んでいますが、徒長気味で茎数はやや少なめとなっています。

米の品質を高めるには「根づくり」が重要です。適期の中干し開始と中干し後の間断かん水で「根づくり」を行いましょう。

【コシヒカリの生育状況】

年次	田植日	5月30日				
		草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色
R5	5/12	27.9	5.5	113.7	5.4	3.9
平年	5/11	26.0	6.1	126.1	5.4	4.0

【中干し】

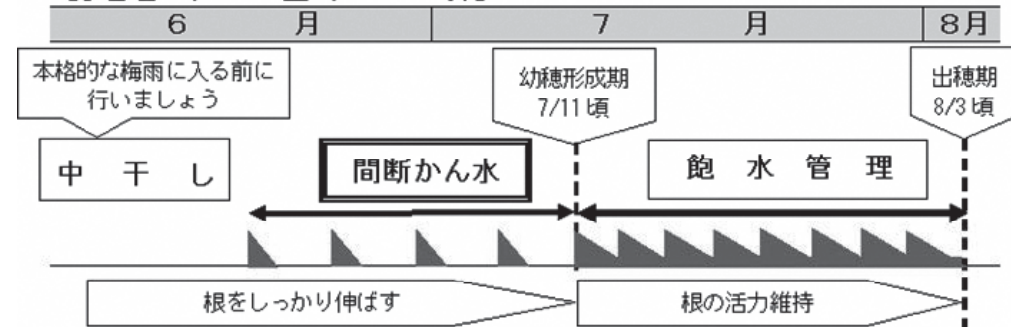
中干しは、田植後4週間頃を目安に開始し、本格的な梅雨の前にしっかりと干し上げましょう。中干しの開始が遅れると根の伸長が不十分となり、米の品質低下につながります。

中干しは小さなひび割れが入り、長ぐつの跡がつく程度まで干しましょう。

中干し後、幼穂形成期までは1日湛水、2～3日落水の「間断かん水」で、根に酸素を与え、伸長を促しましょう。（※目安は足跡の深さ3cm以内に地固め）



【水管理のイメージ図（コシヒカリ）】



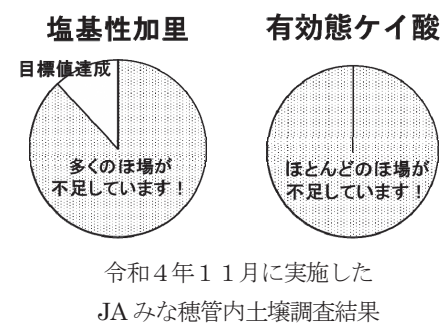
※「**飽水管理**」（足跡に水が残る程度の状態になったら入水する、稲が水分不足にならない水管理）

2 「エスアイ加里らくだ」の施用

管内の水田土壌では、多くのほ場で「**カリ**」が不足し、「**ケイ酸**」はほとんどのほ場で不足しています。稲の受光体勢を改善し、下葉の枯れあがりを防ぐために、「エスアイ加里らくだ」を積極的に施用しましょう。

施用時期：6月20～25日頃

施用量：15kg/10a



「間断かん水」と「飽水管理」で、夏の高温に負けない根づくりを！

3 中・後期除草剤の散布

中干し後に雑草の発生が多い場合は、草種と葉齢に合わせて、遅れずに除草剤を散布しましょう。

対象雑草	農薬名	散布時期	10a 当たり散布量	成分数	使用回数
ノビエ	トドメMF1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後14日～ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1kg	1成分	3回以内
ノビエ・広葉雑草	アクシズMX1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後7日～ノビエ4葉期 (収穫45日前まで)	1kg	3成分	1回
	レプラスジャンボ (湛水して散布)	田植後14日～ノビエ4葉期 (収穫60日前まで)	パック10個 (400g)	4成分	1回
	フォローアップ1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後15日～ノビエ5葉期 (イネ4葉期以降) (収穫60日前まで)	1kg	2成分	1回
広葉雑草	※バサグラン粒剤 (落水して散布)	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg	1成分	1回

※バサグラン粒剤は、2日以上晴れ間が続く日を選んで散布し、散布後3～4日は入水しないでください。
また、雑草が局所的に多発生している場合は、その部分へのスポット処理ができます。

4 カメムシの発生防止

斑点米カメムシ類の住みかとなる雑草地や畦畔の草刈りを徹底しましょう



～草刈り作業時の留意点～

例年、草刈り作業時における農作業事故が多発しています。雑草地や傾斜地等で作業を行う際は、周囲の安全を確認し、怪我や転倒などに注意してください。

多発する事故の例	対処方法
刈り刃への接触・巻き込まれによる事故	ヘルメット、ゴーグル・フェイスガード、すねあてなどの防護の徹底と飛散物カバーを外さないようにしましょう。
飛散物による事故	
キックバックによる事故	
刈刃に草などが詰まった際の事故	確実にエンジンを切って取り除きましょう。

※熱中症対策として、こまめに休憩を取り、水分補給を行いましょう。

★JA みな穂営農情報メールを配信しています。

下のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

主な情報
提供内容

・水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
・気象情報と災害防止の対策

